

(社) 日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会  
第 116 回 レベル 1PRA 分科会 議事録

1. 日時 第 116 回 : 2023 年 10 月 30 日 (月) 14:00~16:00

2. 場所 Web 開催 (Webex)

3. 出席者

(出席委員) 牟田主査, 桐本副主査, 喜多幹事, 高橋 (拓) 幹事, 丹野幹事, 橋本幹事,  
佐藤, 西野, 岩谷, 生野, 香川, 吉川, 三橋, 塩田 (14 名)  
(常時参加者) 寺島, 東 (2 名)

(敬称略)

4. 配布資料

P4SC-116-1 第 115 回レベル 1 PRA 分科会議事録

P4SC-116-2 原子力発電所の確率論的リスク評価用のパラメータ推定に関する実施  
基準の改定について (案)

P4SC-116-3 パラメータ推定標準改定における文献調査について (案)

P4SC-116-4 標準委員会倫理教育に関する資料

5. 議事内容

(1) 出席者/資料確認

委員 14 名が出席しており, 分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。  
また, 配布された資料が確認された。

(2) 前回議事録確認

資料 P4SC-116-1 により, 前回分科会の議事録の確認を行った。

(3) パラメータ推定標準改定について

資料 P4SC-116-2 により, 改定時期となっているパラメータ推定標準の改定に向けた論点  
について報告があった。主な議論は次のとおり。審議の結果, 標準改定に着手することをリ  
スク専門部会・標準委員会に報告することが決議された。

- ・パラメータ推定に関して, 内の事象 L1PRA 基準・指針と規定内容に齟齬のないよう検討し  
ていく。
- ・パラメータ推定標準は, 現状の規定内容から指針に相当することを改めて確認した。
- ・「海外, および国内の規格基準など標準類との整合性」の項目については, 主に国内外の

他機関による標準や関連する規制要件などを対象としている。

- ・資料別紙については、今後の検討における図書イメージとして簡潔に紹介する。

資料 P4SC-116-3 により、パラメータ推定標準の改定に向けた新知見の調査として、文献調査の進め方について提案があり、基本的に提案どおり進めることとなった。主な議論は次のとおり。具体的な調査分担や進め方は別途提示する。

- ・今後調査を進める際には、着眼点や反映要否の判断基準なども合わせて議論する。
- ・資料中の文献 1 については含まれる文献数が多いため、まず簡単な調査によるスクリーニングを行い、詳細調査が必要なものを絞り込む。この中で着眼点や反映要否の判断基準なども具体化していく。
- ・資料中の文献 2 は、PRA にフォーカスしたパラメータ用のデータ収集に関する国内最新のもので、内容について規制庁とも議論しており、適宜その状況もフォローする。
- ・資料中の文献 3 は、国内でのパラメータ推定の実例であり、内容について検討していく。

#### (4) 今後の予定について

次回分科会は、来年 1 月中旬（15 日の週など）を目途に改めて調整することとなった。

#### (5) 今年度倫理教育

標準委員会による今年度の倫理教育を行った。今回欠席の委員には自習して頂くこととなった。主な意見概要は次の通り。

- ・外部からの目や視点がないと倫理的な気づきを得るのは難しい場合もある。
- ・個々人の思い込み、組織内の信頼感・風通しの良し悪しなどが倫理的行動に影響するのではないか。
- ・個人のみならず、マネージメント側の意識も重要と考える。組織内のリスクモニタリングやリスクコミュニケーションなどリスクマネージメントの観点が必要。
- ・倫理的な課題の一つとして、個人の論理と組織の論理の軋轢があるのではないか。
- ・組織内では他の人を悪くは言い難い。それを克服するにも倫理規定や倫理感が必要となるのではないか。

以上